

# ツナガル! ヒロガル! 〈ろうきん〉運動の

# 輪

今回の運営委員会

## 富士宮支店

運営委員会…会員(組合)の代表者と〈ろうきん〉の営業店長などで構成される組織。会員の構成員(組合員)の声が発見された〈ろうきん〉の商品やサービスづくり、組合員の生活の維持・向上に〈ろうきん〉を役立てる施策を企画・展開している。

このコーナーでは毎回、独自の活動を展開する運営委員会の様子を紹介していきます。

### 第2回

## 運営委員会の出席率 88%

(2009年度上半期平均)

## 富士宮支店 運営委員会の秘密

お話をうかがった  
運営委員さん

運営委員と職員の距離を近づけるため、毎月1回、営業店の朝礼でスピーチ

●運営委員長 篠原秋利さん  
(富士フィルム労働組合)

富士宮支店  
30周年イベント  
実行委員長を担当

運営委員経験  
20年以上の  
大ベテラン

●副運営委員長  
落合 廣己さん  
(富士宮市立病院職員組合)

●副運営委員長  
小林 純一さん  
(テルモ労働組合)



運営委員長になった時から、「目標にこだわりの持つ」ということに取り組んできました。例えば、富士宮支店運営委員会は、「ろうきんの良さ」を多くの方へ伝える「活動を掲げていますが、相手に「伝わる」には、まず自分がそれをわかっていること、相手と対話する機会が必要です。その活動を実践するために、運営委員会で「ろうきん」の商品・サービスの研修会を行いました。そして、今度は運営委員自ら同じ組織の仲間の前でその商品、サービスを紹介する取り組みを行ったのです。どうしたら「伝わる」かこだわった取組の一例です。

支店の目標数字にもこだわります。支店の職員だけでなく、運営委員もローンや預金、給振やマイプランなどの個別目標まで意識しています。それが、「ろうきん」の事業を継続していくために必要だからです。勤労者向けのサービス、多重債務問題への取組等、「ろうきん」からできる活動、これらが継続されていくには、目標が達成され、「ろうきん」の事業が継続される必要があるからです。

目標に  
こだわりの  
持つ



運営委員会で30周年イベントに取り組むことを決め、実行委員会を立ち上げ、活動を進めてきました。その中で、一番こだわったのが、何を目的(目標)にこのイベントをするのかという点です。その場限りのイベントでは終われませんが、これから先10年「ろうきん」が続いていくきっかけになるイベントにしたい、「なら、これから「ろうきん」を使って欲しい若者や女性に参加してもらおう」、「〈ろうきん〉に好感を持ってもらえるイベントがいい」等、実行委員会のメンバーで考えに考えました。

今はイベントが終わったばかりなので、正直「やっと終わった」という感想しか出てきませんが、計画から実行まで運営委員会のメンバーでこだわって実施できたことは、ひとつの財産だと思えます。また、目標通り、若者、女性を巻き込むイベントにできたことは、次の10年へ進む、ひとつのきっかけになったのではないかと思います。

10月4日(日) 富士宮市田貫湖にて。「ろうきん森の学校」でお馴染みのNPO 法人ホールアース研究所も協力しています。



富士宮支店  
30周年  
イベント



「運営委員会を楽しくする」というのも、就任当初からの私の目標です。運営委員が楽しく「ろうきん」、楽しく「たな」と興味を持ってもらえます。具体的には、運営委員会で報告を「ろうきん」に関わる活動に限らず組織の状況報告を加え、発言の機会を増やしたり、懇親会を開催したり、委員同士が相手を知り、発言しやすい雰囲気づくりをしてきました。その成果が、運営委員会の出席率に結びついていると考えています。

運営委員会への出席について、始めは各組織の委員長や支部長に要請して回ったそうです。篠原運営委員長が目標にした「運営委員会を楽しくする」、「目標にこだわった運営委員会の活動の成果が、もつつの目標「出席率を上げる」という好循環のサイクルを生み出しているようです。



目標数字にこだわり、周年イベントの目的を決めるのに何度も集まって議論でも、みんな嫌がらないんですよ。運営委員会の中で、その目標については「できない」と言う意見も出ますが、基本的には前向きで、「その目標について取組ができないなら、こちらの取組ならどう」と発言がながっていきます。

やるからには目標を持つのは当たり前ですし、やり遂げれば達成感があります。やっていて楽しいという感覚はあると思いますよ。

運営委員会は  
楽しい?!



このコーナーでは、運営委員会の活動を紹介していきます。取材に協力した委員会のメンバーは、ぜひご連絡ください。

